

■ 日本国際教育学会 第29回 研究大会 (一橋大学)

日本と韓国における民間運営の混住寮

朴明万 (UR Seoul)

2018. 09. 29

CONTENTS

I. はじめに (なぜ、混住寮を)

II. 韓国と日本の混住寮の現状 (運営と動向)

1. 日本の混住寮：運営と政策
 - 1) (株) M&S 「J-DREAMの設立背景と運営」
J-DREAM国際交流会館
 - 2) グローバル人材開発 (株)
 - 3) (株) 東京ライフスタイル
2. 韓国の混住寮：「UR Seoul Residenceの運営現況」

III. 混住寮の教育的効果

1. 内なる国際化と共生の機能
2. 教育的機能とその効果
 - 1) 国際交流の拡大
 - 2) 共生意識の向上
 - 3) グローバル人材育成の促進

IV. 結びに代えて : 今後の混住寮運営のあり方



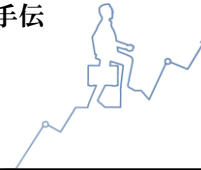
I. はじめに（なぜ混住寮を）

▶なぜ、日本で寮の運営会社を設立したか

▶最初から**住まいの留学**（混住寮）を創った理由

①国籍を問わずすべての学生（年齢を超えて学習意欲を有する人）を住環境の面からサポートすることを目的として設立

②国際学生寮という性質上、寮内での活発な異文化交流が可能など、国際理解という観点から各方面へのお手伝い出来るだろうと考えた。



II. 韓国と日本の混住寮の現状(運営と動向)



1. 日本の混住寮：運営と政策

1) (株) M&S 「J-DREAMの設立背景と運営 (設立から現在までの変化)」

▶ J-DREAMの設立背景

J-DREAM 国際交流会館

▶ J-DREAMの運営

- ・寮形式
- ・マンション形式
- ・ワンルーム形式

▶ J-DREAMの実績

- ・国際交流イベント
- ・多様な文化体験
- ・進学指導
(専門学校、大学、大学院)

▶ J-DREAMの宿舎

・計16カ所を運営
1996年3月武蔵境1号館オープン
から武蔵境2号館、国分寺、
蕨、青葉台、浅草、門前仲町、
新小岩、武蔵関、富士見台、
江古田、東中野、新宿1号館、
新宿2号館、**松ヶ谷** (SARS隔離
施設として購入して運営)

▶ グローバル人材開発 (株)
： ワンルーム形式

▶ グローバル人材開発 (株)
： 実績

▶ グローバル人材開発 (株)
： 宿舎

2010年9月東十条オープン、蒲田

▶ (株) 東京ライフスタイル
： ワンルーム形式

(現在、運営会社)

※新規法人経営

J-DREAMの住まいの留学 (混住寮)

国際交流生活の始まり
J-DREAM™

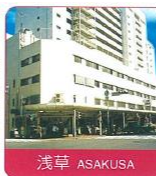
国際学生交流会館
International Student Exchange Dormitory



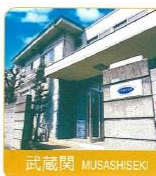
国分寺 KOKUBUNJI



蕨 WARABI



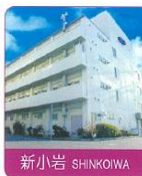
浅草 ASAKUSA



武蔵関 MUSASHISEKI



門前仲町 MONZENNAKACHO



新小岩 SHINKOIWA



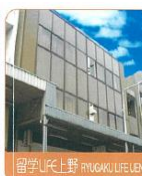
武蔵境 MUSASHISAKAI



新宿1号館 SHINJUKU No.1



新宿2号館 SHINJUKU No.2



留學上野 RYUGAKU UENO



富士見台 FUJIMIDAI

J-DREAMの文化交流



일본 조약학과 방문



시안현 방문



景福宮



J-DREAM 消防車

J-DREAMの事例



一緒に暮らしてお互いの文化を知ることが国際交流の第一歩。

現在、J-DREAMには27ヶ国の人が暮らしています。J-DREAM 浅草に住む日本人の青山さんは、現在、南アフリカ出身のDAVIDさんがルームメイトです。外国人のとの共同生活についてお話を伺いました。



DAVIDさん	青山さん
日本語学校在籍	大学4年生、法学部
南アフリカ出身	新潟県出身
2004年10月入館	2003年10月入館

DAVIDさんにもインタビュー
 外国の人と暮らすことは、お互いの文化を知る上でいい勉強になります。特に、日本人の青山さんと一緒に生活していると、日本に関する発見があります。また、彼はユーモアがあるし、本当にいいルームメイトですよ。

J-DREAM 浅草の管理人さんより
 二人に共通して言えることは、国籍を問わず、どんな人とも積極的に話していることですね。となく、同じ国同士で暮まりやすいのですが、彼らは違います。青山さんは、J-DREAMで英語、中国語と韓国語に聞きかけたようです。自分から積極的に話をしていく姿勢がよかったと思います。語学学校以上の効果も期待できるかもしれません。ただし、自分から話し掛ける勇気が大切ですね。

- Q. J-DREAMには多くの外国人の人が暮らしていますが、この環境はどうですか？
 特に違和感はないですね。いろんな国の人があるので、外国語を勉強する人にもいい環境ではないでしょうか。
- Q. J-DREAMで語学は上達しましたか？
 ある程度は上達しました。語学よりも文化や習慣の違いを知ることが勉強になります。例えば、韓国の人はご飯を一人で食べることを嫌います。僕が一人で食事を取っていると必ず誘ってくれます。一緒に生活してから知ったことでした。
- Q. これは困った！ということはあるですか？
 J-DREAMに住む外国人は日本語を勉強中なので、よく聴いて貰おうとされます。「やっ」と「どうどう」の違いを聞かされて・・・、日本語を説明するって意外に難しいんですよ。
- Q. ルームメイトのDAVIDさんとの生活はいかがですか？
 彼は親やがて真逆です。勉強熱心で、日本に強い興味をもっています。彼に日本の文化や習慣を聞かれたり、ほかが南アフリカのことを聞くこともあります。日本語で話すことが基本ですが、お互いにうまく表現できないときは英語や中国語を使って理解しあっています。
- Q. J-DREAMに安心をもった方々にメッセージをお願いします。
 外国の人と暮らす中でいろいろな発見があります。相手の国のことを知るだけでなく、自分の国である日本を知ることもできます。ほんとの国際交流に触れるいい場だと思います。

興味をお持ちになった方へ

「3ヶ月プチ住まい契約」をおすすめいたします。
 3ヶ月間だけの契約が可能です。もちろん延長もできます。J-DREAMで真の国際交流を感じてみてください。
 お問い合わせは→→→

2. 韓国の混住寮：「UR Seoul Residenceの運営現況」

<UR Seoulの紹介>

- ・2016年1月に事業を開始、約2年間9カ月で36か国200校以上の大学からの学生が利用
- ・今や同様のビジネスモデルを有する企業が登場

・何故、UR Seoulなのか

企業の設立目的

韓国の大学生、海外からの交換留学生および大学教職員が居住する外部の宿舎を、単なる居住空間ではなく、行政、教育、文化サービスを受受できるライフ空間として提供

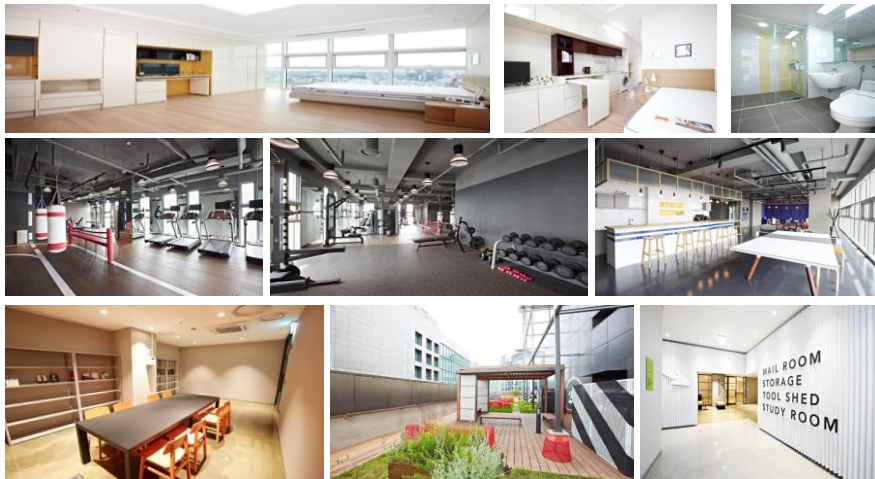
期待効果(国内大学)

- ・効率的な外国人学生管理
- ・学生管理にかかる行政コストの削減
- ・総合サービスをサポートできる居住空間の提供により海外からの留学生の誘致が容易
- ・外国人向け韓国文化体験機会および相互交流機会の提供により国際交流を促進

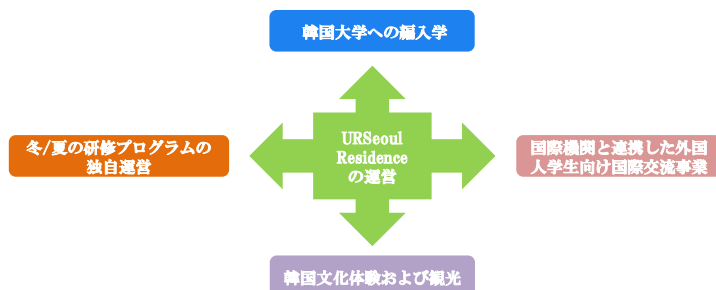


▲付帯施設

- ・URSeoulは現在、ソウルの交通の要衝であるソウル駅の近くで最高級オフィステル150室を運営中
- ・学生の利便性向上に向けて、各部屋にキッチン/ベッド/机/洗濯機/エアコン/冷蔵庫を設置
- ・学生の健康増進に向けたフィットネスジムを運営
- ・学生の勉学向上ためのスタディールームを運営等々



その他のサービス



▲当社のレジデンス利用の現状

- ・韓国と日本の両国において、これまで22年間経験を生かして外国人交換留学生および教職員向け混住寮を競争力のある価格で提供
- ・現在、36か国200校以上の大学からの学生に様々なサービスを提供

- ソウル市内の全大学との連携
- 米国のプリンストン大学、英国のオックスフォード大学、日本の関西学院大学など200校以上の大学からの学生と教職員が利用

Ⅲ.混住寮の教育的効果

1. 内なる国際化と共生の機能

住まいの留学から始まった混住寮

最初は外国人留学生のみ
受け入れ

その後

日本人の学生が入居して
共生

1996年頃には先進国日本と韓国・中国・台湾との文化レベルの差があまりにも大きく、トイレの使い方など、文化や生活習慣の違いによる数多くのエピソードが生まれた。

事例1

浅草寮で一橋大学の学生が6ヵ月毎に入れ替えて相部屋生活

事例2

国分寺寮でパレスチナ人学生とイスラエル人学生が最初は互いに警戒したが、最後は手を握るほどの仲良しな関係になった

事例3

日本語養成講座に通っている日本人学生が入居して、外国留学生との生活をしながら、日本語を教える実践体験をした

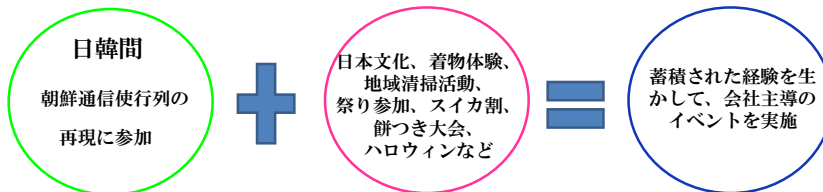
事例4

各宿舎の所在地にある地域区民センターで提供するプログラムのボランティアの方々が宿舎を直接訪問し活動を行うようになった。

2. 教育的機能とその効果

1) 国際交流の拡大

混住寮の実践ネットワークを通じて国際化の必要性和環境的変化の理解を深める



1) 国際交流の拡大 (事例)

事例1

韓国国際教育者協会 (KAIE)資料発表：日・中・韓の国際教育の比較

事例2

全国日本語学校連合会 (JALSA)の依頼で55校の日本語学校とともに上海、北京、瀋陽で留学フェアを開催

事例3

北京で初の韓国大学入学説明会を開催

事例4

延世大学の依頼で中国現地で次世代リーダープログラム (全額奨学生) 選抜を代行

事例5

日本・中国・韓国の現地法人の経験とデータを利用して本を発行
タイトル：『大学が変わると国民が幸せになる』2004年

事例6

国際教育交流協議会 (JAFSA)と韓国国際教育者協会 (KAIE)との架け橋の役割を遂行

事例7

韓国で混住寮を設立するために韓国大学に代わって海外で留学生誘致活動を展開：年間約1,000人募集

2) 共生意識の向上

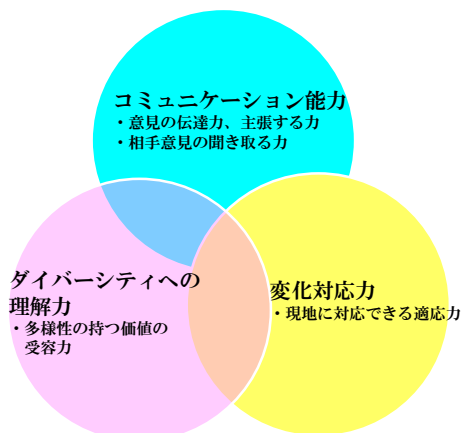
国籍と民族、文化の差、様々な価値観をお互い認め合い、共に生きていく多文化共生に関する指針、計画を策定することで、混住寮における多文化共生を実現

3) グローバル人材育成の促進

- ・政府主導と大学中心のグローバル人材養成政策の克服
- ・民間の混住寮中心の人材養成への転換

VI.結びに代えて：今後の混住寮運営のあり方

グローバル人材に求められる能力



大学単位別、或いは地域別の大規模な混住寮形式のグローバルビレッジが必要。何故なら、韓国では英語など外国語・グローバルマナーを身に付けた人材が人口の20%は必要であり、日本では人口の5%が必要であると言われている。最近、日本経済の好況下で、特により広い就職機会が与えられ、日本人の海外留学や海外出張の忌避現象が深化されると予想されるので、日本国内で学生時代に国際経験できる混住寮の設置・運営の拡散が期待される。

ご清聴有難うございます。